

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年11月

（1）聞きたいこと聞いてほしいこと交流会～農地有効活用研修会～

11月6日、知名町役場で女性農業者経営士からなる「はるあぐの会」と農業普及課の共催による「聞きたいこと聞いてほしいこと交流会」で農地有効活用をテーマに研修会を開催し、和泊・知名両町の女性新規就農者、農業委員・農地利用最適化推進委員等21人が参加しました。農業委員会事務局からは、農地不足等に関する説明がありました。また、女性農業者の経営参画状況やほ場の土壌条件などについて情報交換をしました。次回は農閑期の来年6月頃開催の予定ですが、農業普及課では、今後も横のつながりが広がるよう支援していきます。



（2）トルコギキョウの安定生産に向けて実証中

11月7～8日、与論島にて農総セ花き研究室、経済連、JA与論、与論町担当者が参加し、トルコギキョウ現地試験（7月播種1月出し）の生育を調査しました。今年度は6品種を供試し、2種類の育苗方法（種子冷蔵のみ、種子冷蔵＋夜冷育苗）の生育比較、与論地域に適した品種の選定の2つを試験しています。今回は草丈、ロゼット率、チップバーン（葉先枯れ）発生率を調査し、ロゼットはいずれの区も確認されず、チップバーンは全区で確認されました。1月の出荷時まで生育調査の予定です。

（3）与論大雨被害の復旧指導

与論町での11月8～9日の大雨で、冠水・濁流による土砂流入や、耕土流出による農作物等や施設に大きな被害（被害額約9千万円）が発生しました。その中でも園芸品目は被害が大きく、関係機関で被害調査・現場確認を行い、優先すべき対策として、冠水した生育初期のいんげんほ場の再播種、植付け期間中のさといも・いんげんのほ場準備・植付け、病害対策（薬剤散布）を指導しました。大量の土砂流入や耕土流出したほ場の復旧では、時間のかかるほ場もありますが、引き続き復旧指導を行っていきます。